

古稀の春 松下幹生

齡(よわい)七十 人生の
終盤となり

人として 生きて来た
特筆をする 善行もなし
悪さの1つも したけれど
賞罰なしの 古稀迎え
皆に囲まれ 幸せな日々

昔の友は どうしてる
元気で居るか?

消息も 居どころさえも
何も分からず 思い出だけが
脳裡をかすめて 無事祈る
機会があれば もう1度
会ってみたいと 思う日々

梅の便りが 届く時期
同窓会の
知らせ来る 古稀を祝って
久方ぶりに 顔を合わせて
昔に戻って 談笑し
積もる話に 華咲かし
会えて良かった 古稀の皆